

第二の人生を楽しむ

松楠会仲善支部 香川 佳子

教員生活 30 年を退職した後、四国新聞社創立百周年記念事業として新設された「おりーぶ通信」の女性通信員となって 24 年あまり、今、第二の人生を楽しんでいます。

心温まる地域の話題、季節の訪れを告げる花々や草木、心に残る思いなどを、必要に応じては写真を添えて執筆し送稿、選ばれれば同新聞の紙面に掲載されるものです。取材を通して多くの出会いに恵まれ、いろいろな人のいろいろな生き方をこの目で見、この肌で感じることができました。

助産婦歴 50 年、3 千人の赤ちゃんをとりあげ、82 歳の取材当時も母子推進員として現役の F さん。定年退職後 10 数年、奇術を愛好、施設慰問を生き甲斐とする T 氏。幼いころから日記を書き続ける U さん、19 歳で農家へ嫁ぎ、出征した夫が終戦 4 年後、シベリア抑留から帰るまでは農作業と育児の明け暮れ。哀歓の日々も、日記を書くことで苦勞が和らぎ、心の支えとなったとか。地域に奉仕するグループや多くの人々に出会い、心の温かさに感動。小規模の幼・小・中校ながら、皆の協力で様々な教育活動をしている等々、「ふるさと再発見」の日々を続けています。

最初、約 22 年の記事は新聞紙面への掲載でしたが、2 年ほど前からはパソコンの「インターネット」に移行。原稿も写真もネット送信になり、午後 5 時過ぎまでの送稿だと 10 数分後、遅くてもその日（土・日・祝祭日等は除く）のうちに、アップ。日本中へ発信され、日本中で読めるようになりました。

だが、問題も多く、当時、私も含めネット送信技術をもたない通信員たち。社もネット研修会を開いてくれましたが、困難なマスター状況。読者の中にも、「パソコンやが無い、あってもよう読まん。楽しみやったのに・・・」と嘆く人が大勢いました。ハードルの高い「おりーぶ通信」でしたが、現在一日に約 300 のアクセスはある（同社談）とか。インターネットで「四国新聞、おりーぶ通信」を検索いただくと、エリア（地域別）、過去のニュース（年月別）などもあり、ネット内の全記事が読めます。どうぞ、ご愛読下さい。頑張っている通信員たちもきっと喜ぶでしょう。

これが私のささやかな第二の人生です。

（学芸・昭和 32 年卒）